

「伝統の継承」と 「甦る偕行社」

石川県偕行会会長

千川 康夫 陸自63

6月上旬、梨木^{なしのき}金沢駐屯地司令と懇談する機会があり、その際、金沢駐屯地の幹部に対し、金沢駐屯地の明治以来今日に至る歴史について講演できなかった、できれば石川県偕行会の旧陸軍士官学校の方が望ましいと言うことでした。

早速軍歴のある聯隊旗手を務められた陸士57期の大先輩に相談しました。が、体調不良により無理なことから、終戦時士官学校に在籍中の方にも相談したが、適任者がいなく、偕行社へ講師の派遣をお願いしたいです。

講師に白石博司近代史研究員を派遣して戴くことになり、7月25日、石川県偕行会主催による駐屯地幹部教育を行った。駐屯地幹部約60名と12名の偕行会が、午後質疑応答含み約2時間余り聴講した。

演題は「軍都金沢における歴史・伝統の継承」で、講師の事前の金沢市内の現地調査や県立歴史博物館における資料収集結果などのキメ細かな内容であった。

焦点を金沢城内にあった旧陸軍第9

師団第6旅団の歩兵第7聯隊に絞り、今日の金沢駐屯地までの歴史についての講演であった。梨木司令が日頃から、駐屯地の隊員に対し「伝統の継承」を強く要望されており、十分成果を上げたものと思っています。

講演終了後、県立美術館と県立歴史博物館（旧陸軍兵器倉庫）横に石川護國神社脇にあった「旧金沢偕行社と9師団司令部庁舎」（「偕行」27年7月号に紹介）を移設し、東京オリンピック前に完成する東京国立近代美術館に利用されることを紹介した。

ここに「金沢偕行社」が甦り末永く、その名が歴史に残っていくことを隊員は認識したものと思っております。

最後にパンフレット・資料を利用して「偕行社（石川県偕行会）」の意義についても周知でき、今後の入会者の促進に繋がるものと信じております。



幹部教育の様子